



# JANSI ニュースレター

お問合せ先

原子力安全推進協会 総務部

広報グループ

TEL : 03-5418-9312

FAX : 03-5440-3606

e-mail: newsletter@genanshin.jp

HP: http://www.genanshin.jp/

Vol.13(2016年春)

本ニュースレターは、当協会と接触のあったマスコミ関係者の方々に対して、当協会の活動状況をお知らせするために作っています。

## 緊急時対応に係るセミナーと講演会を開催

JANSIは3月10、11日の両日、会員を対象に「緊急時対応に係るセミナーと講演の会」をJANSI会議室で開催しました。電力会社や原子燃料加工メーカーなどから約70名の参加者がありました。

### ●開催の経緯

JANSIでは事業者の緊急時対応能力の向上を図るため「原子力防災訓練ガイドライン」を2013年に制定しました。そして同ガイドラインに基づく事業者への支援を行うため、学識経験者も交えた原子力防災訓練検討委員会を設置し、緊急時に備えた様々な活動を展開しています。「緊急時対応に係るセミナーと講演の会」は、同委員会の活動の一環として開催したものです。

### ●「セミナーと講演の会」のねらい

原子力防災訓練検討委員会等の活動を通して事業者からの、

- ✓他社の緊急時対応の状況についての情報もほしい。
- ✓海外の先進的な取り組み事例を知りたいが、どこに調査にいいのかわからない。
- ✓防災、緊急時の対応が保安教育の延長となっており、さらに専門な知識を吸収したい。

等の意見を踏まえ、防災・緊急時に係る基礎研修(セミナー)を定期的を実施することとしました。

また、東京電力・福島第一原子力発電所事故から時間が経過しても、緊急事態が発生した時の日頃からの備えの重要性を認識し続け、「気持ち」の上での風化を防ぎ、原子力防災について高い意識を保っていくことが肝要であると考えています。

このため、JANSIではこれらを融合させた研修を企画・実施しています。3回目となる今回は、東日本大震災・福島第一事故から、ちょうど5年目となる日に開催しました。講演会では、講師に原子力の関係領域・周辺領域で(原子力工学の専門家ではない)危機管理・防災の実務に詳しい有識者をお招きし、事業者に対して幅広い角度から意見を頂きました。

### ●開催の概要

セミナーでは、緊急時対応に関する海外動向の調査結果として「欧米における緊急時対応に係る規制動向と事業者の対応」と「スイス、スウェーデンの原子力発電所における緊急時対応調査報告」の2件の報告が行われました。

技術講義として、シビアアクシデント(SA)発生時の原子炉内での燃料崩

壊と炉心損傷に至る過程について、米国TMIと福島第一の事故を題材にした炉心解析と、新規規制基準の体系と炉心解析の手法としてSA解析コードMAAP(Modular Accident Analysis Program)の概要について、それぞれJANSIのテクニカルアドバイザーが説明を行いました。

「危機的状況の伝え方、受け止め方について」をテーマに行われた講演では、宮城学院女子大学の橋智樹教授から「発電所内の危機的状況のマネジメント」、また大阪大学の八木絵香准教授からは「社会とのリスクコミュニケーション」と題して講演が行われました。

### ●参加者の感想

セミナーについては、欧米とは法規制のしくみ等の「環境」の違いもあるので、海外事例がそのまま日本の発電所にあてはまるとは思えないが、自分の発電所での具体的な検討のために、大きなヒントを得ることができたとの意見を頂きました。また、SA時の炉心挙動や炉心解析コードの解説、TMIと福島第一事故の炉心挙動を対比した講義は、これまでは発電所の一部の専門家に限られた情報だったので有益だったという声が多く寄せられました。

講演では、講師の「安全を高める対策」と「安心を得るための対策」は別物として捉えておくことが肝要といった提言や、地元自治体とは日頃の対話を通して、安全協定に定める通報連絡の「直ちに」とはどの程度のものをいうのか、といった「相場感」を形成しておくことが重要であるという意見に賛同の声がありました。信頼を改めて得るためには、王道はなく愚直に取り組むしかないことを再認識し、新しい視点から助言を得て勉強になったとの意見が寄せられました。



講義を行うJANSIの藤城俊夫テクニカルアドバイザー(左)と八木大阪大准教授

## 立地地域でJANSI活動の説明会を開催

3月16日、北海道電力泊発電所の立地地域4町村(泊村、共和町、岩内町、神恵内村)にお住まいの方を対象にJANSIの活動状況について説明会を行いました。

発電所立地地域の方々にもJANSIが民間の自主規制組織として行っている活動についてご理解をいただくことを目的に開催したもので、昨年7月に敦賀市で行った説明会に引き続き2回目です。

今回はピアレビュー活動や、発電所の再稼働といった事業者への各種の支援の状況について、出席された22名の方にご説明いたしました。また、これに合わせて共和町役場と神恵内村役場にも伺い、担当の職員の方にJANSI活動についてご説明し理解を深めていただきました。

JANSIが原子力産業界の自主的安全性向上活動に取り組んでいる状況について、今後も立地地域の皆様にご説明してまいります。



説明を行うJANSI中野益宏執行役員

## JANSIのミッション(経営理念)

JANSIは、日本の原子力産業界における世界最高水準の安全性の追求(～たゆまぬエクセレンスの追求～)を確実なものとするため、原子力事業者の自主的継続的安全性向上活動を牽引する。

## NRC職員ジャーダナー氏がJANSIで研修

米国原子力規制委員会(NRC)職員で、語学と省庁での研修のために来日したマムドゥ・ジャーダナー氏が2月1日～2月12日の2週間、JANSIで研修を受けました。

ジャーダナー氏は日米交流を目的とするマンズフィールド財団のプログラム\*で昨年の夏に来日し、約1年間日本語や日本文化の習得を行うとともに、希望する省庁等の機関を回って研修を受けています。JANSIは規制庁、資源エネルギー庁に続き3か所目の研修先でした。「JANSIが日本における民間の安全規制組織としてどのような仕事をしているか体験したい」という同氏の強い希望でJANSIでの研修が行われることとなったものです。

研修の第1週はJANSIの概要を学ぶため各部の活動について説明を受け、第2週は個別活動(「リーダーシップ研修」、運転経験情報管理等)について資料やビデオを使ってより詳しい研修を受けました。

研修最終日には同氏からプレゼンテーションがあり、JANSI職員が聴講しました。ジャーダナー氏はJANSIの強みとして、職員の知識・経験が豊富であること、仕事に対して熱意を持っていること、オープンに意見交換できる雰囲気があることを挙げました。その他NRCにおける同氏の業務内容、日本と米国の規制組織の違いについても紹介があり、聴講者との間で活発な質疑応答が行われました。

同氏は、今後、外務省や福島県庁などでも研修を受ける予定です。



上：運転経験情報管理について説明を受けるジャーダナー氏(右)  
左：同氏によるプレゼンテーション

### ※マイク・マンズフィールド・フェロースHIP・プログラム

米国の国会議員の重鎮であり、駐日大使も長く務めたマイク・マンズフィールド氏の名を冠した日米両国間の実務的な政府間研修プログラム。米国議会からの拠出に基づき、米国務省教育文化局の交付を受けたマンズフィールド財団が運営を行っている。

1994年に米国議会によって設立され、日本語学習と日本での研修の機会を通して日本の行政システムに詳しい知日派の中堅若手官僚の養成を目的にしている。フェロー派遣は今年度で20期目。現在120名のフェロー経験者が米国内外で活躍している。

## JANSI Annual Conference 2016を来週開催

JANSIは「Annual Conference 2016」を4月7日(木)に、イノホールで開催いたします。

3回目の開催となる今回は「競争環境下における原子力安全の確保」「再稼働時における原子力安全の確保」をテーマにディスカッションを行います。

基調講演では、4月から実施された電力の小売り全面自由化を踏まえ、先行事例である海外における電力会社間の競争と原子力事業の安全性確保の状況についてCandu Energy社のスワフォード CEO(JANSIの国際アドバイザー委員)から紹介いただきます。

セッション3では、今後、福島第一の事故後に長らく停止していた原子力発電所の再稼働が見込まれることから、九州電力の瓜生道明社長から、川内原子力発電所を安全に再稼働させるべく実施した活動、そこから得られた教訓などについてご講演をいただきます。

また、これらについて、それぞれセッション1と3でパネル討論を行う予定です。

合わせて、2015年度のJANSI活動の成果についての報告とポスターセッションによる説明を行います。

本カンファレンスでは、報道関係者の傍聴席も用意しておりますので傍聴を希望される方は、事前登録をお願いいたします。席数には限りがありますので満席となった場合はご容赦ください。

なお、会場内での取材(ビデオ撮影や登壇者等への質問を含む)はご遠慮いただきますようお願いいたします。

- 日時 平成28年4月7日(木)9時30分～18時20分
- 会場 イノホール  
(千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング4階)
- スケジュールと登壇者(敬称略)

- 開会挨拶 原子力安全推進協会代表兼理事長 松浦祥次郎
- 基調講演 「競争環境下における原子力安全の確保」(仮題)  
Preston D. Swafford(President and CEO, Candu Energy, JANSI国際アドバイザー委員)
- セッション1 ～テーマ：競争環境下における原子力安全の確保  
【討論者のショートスピーチとパネル討論】  
座長：長野浩司(電力中央研究所 社会経済研究所長)  
討論者：八木誠(関西電力社長)、勝野哲(中部電力社長)、他
- セッション2 ～テーマ：2015年度のJANSI活動成果報告  
発表者：成瀬喜代士 JANSI理事統括室長
- セッション3 ～テーマ：再稼働時における原子力安全の確保  
【テーマ講演】「川内原子力発電所1,2号機の安全・安定運転への取組み」瓜生道明(九州電力社長)  
【討論者のショートスピーチとパネル討論】  
座長：松浦祥次郎  
討論者：真弓明彦(北海道電力社長)、門上英(三菱重工常務執行役員原子力事業部長、他)



昨年のカンファレンスの様子

## 役員人事と組織改正のおしらせ

### ●役員人事

2月1日付で松浦祥次郎代表が理事長を兼務することになりました。これに伴い、前理事長の藤江孝夫は最高顧問に就任いたしました。同日、理事長代行に山崎広美(前中部電力専務執行役員・環境・立地本部長兼原子力本部付)が就任しました。

### ●組織改正

4月1日付で国際連携室を新たに設置しました。国際動向を踏まえたJANSIとしての国際戦略づくりや海外機関・組織との円滑なコミュニケーションを進めていくというねらいがあります。室長には久郷明秀理事が事務委嘱されました。

●当協会HPには、より詳細な情報を掲載しております。ぜひご覧ください。 <http://www.genanshin.jp/>